

#LCICON2019



EXPERIENCE THE ART OF SERVICE

MILAN, ITALY • JULY 5-9, 2019

102ND LIONS CLUBS
INTERNATIONAL CONVENTION



Lions Clubs International

第 102 回ミラノ国際大会
2019.7.4~7.9

増刊号

[参加者]

越智 英明
花山 志郎
徳増 達史
森下 雄一
花山 育子
徳増 明子

2019年7月4日成田発 PM12:35、アリタリア航空 (AZ787 便) にてミラノに出発。
約12時間後の同日 (時差-7時間) 18:50頃ミラノ、マルペンサ国際空港に到着した。

入国カード不用、税関でも簡単に押印、驚くほどの早さで入国できた。

さすが、親日国だ。荷物を受取り出口に向かうと、ガイドのMS.BARBARA
が「MORISHITA、PARTY」のネームボードを持って我々を出迎えてくれた。
早速ホテルへ直行。市内まで約50分の距離だ。スターホテル.アンダー
ソンは、ミラノ中央駅の前に在り、長期滞在に適したホテルだという

(ここに6連泊) ミラノ中央駅は1912~31年にかけて建てられた重厚で巨
大な建物だ。

行き止まり式の駅で、列車が発着する2階からスロープの動く歩道で中2階、1階、半地下を結んだ4
階建ての巨大な駅だ。また、レストラン、ショップ、バルカフェ、スーパーマーケット等があり滞在中、
レストランやスーパーには大変お世話になる。

さて、ホテル内は近年改装され、赤と黒を基
調としたデザインが特徴のおしゃれな雰囲気
のホテルだ。

夜もふけてきたが、9時過ぎまでは明るい。
夕食をとる為に駅に向かった。階段の上の方

にそれらしきものを見つけ入ってみると、何と眼下にはミラノ駅のホームが広がっている。

最高のロケーションだ。さっそく色々注文し、先ずビールで乾杯。パスタ類も中々の味で、ポーノだ。

ホテルに戻り、明日の市内観光にそなえて就寝！！



7月5日、今日は市内観光である。ガイドが多忙で半日しか取れなかったが、9時少し前に日本人ガイド
のワタナベさんが迎えに来た。

早速専用車に乗り込む。車中で何度も盗難に逢わない様にと注意を受ける。

私がこれだけ注意したにもかかわらずヤラれたと、過去の例を話してくれた。

カバンを前に、手でしっかり押さえて、バラバラにならない様にと、何度もしつこい位い云われた。世界
154ヶ国からのメンバーがこのミラノに集結しているのだからその手の集団にとっては、又とないチャン
スだろう。後日、他のガイドから、ミラノの日本大使館はパスポートの再発行に追われていることを聞
かされた。私達は半分観光、半分用心の気持ちで行く先々、ガイドの説明を聞いていた。お陰で大したト
ラブルもなく観光出来た。スカラ座博物館、ヴィットリオ・エマヌエレ2世ガレリア、ドゥオモ、サンタ
ンブロージョ大聖堂、スフォルツェスコ城
など、昼過ぎまで暑さと混雑の中、見て
まわった。



特にドゥオモ周辺は大変な混雑で、盗難には特に気を付けた。

ドゥオモに入るのには長蛇の列なので女性たちとは別れ、我々は近くのバーで冷たいビールをいただいた。一通りの観光を終え、ガイドと別れた後、昼食は例の駅のレストランでとった。この後、地下のスーパーで食料品を買い込み、ホテルに戻る。私と森下 L は登録の為に所定のホテルにタクシーで向かう。そこで2人の日本人スタッフの女性が親切に対応してくれ、帰りのタクシーを呼んでくれた。夕食は私たちの部屋に集まり、先程スーパーで買った食料品でささやかな宴会となる。

愈々明日はパレードの日だ。 ※パレード7月6日、7日報告記はこの後の森下Lがいたします。

7月8日、オプションツアー2日目。

今日はトリノ1日観光である。私にとって、今回の旅行でどうしても行きたかった場所の1つである。昨日同様、ミラノ中央駅を午前8時40分発でトリノ・ポルタヌオヴェ駅に向かう。イタリアの高速鉄道は民営のトレニタリア社の「フレッチャロッサ」とNTV社の「イタロ」がある。

行く場所によって違うが、昨日はフレッチャロッサだったが、今日はイタロである。



イタロはその真紅の車体から通称「フェラーリ特急」

とも呼ばれている。300 kmの速さで飛んでいく緑多き北イタリアの風景は格別だった。

約1時間で到着。ガイドのフェラリタ（フェラーリかと思った）さんが迎えてくれた。

ひと駅地下鉄に乗り継ぎ外に出ると本当に田舎の町だった。眼前に大きな建物がある。以前はフィアットの本拠地だったが、今は多目的なビルだという。

今日は車は使わず、すべて徒歩の様だ。しばらく歩き、先ず自動車博物館へと向かう。

そこには馬車から始まり最新のランボルギーニまでが展示され、中には懐かしい車や見たことも聞いたこともない車種もあった。1階から4階まで昼頃まで見てまわり、再び市内に戻り市内のレストランで昼食をとる。



ここピエモンテ州の名産、赤ワインの「バローロ 2014」で乾杯。

ラザニア風や、パンナコッタ、ティラミス、エスプレッソなど空腹を満たした。

ここトリノは人口約89万人でローマ、ミラノ、ナポリに次ぐイタリア第4位の規模で、2006年の冬季オリンピックで荒川静香さんが金メダルに輝いたことで旅行先としての知名度が高まったと云われている。天気が良く、遠くアルプスの峰々を望むことが出来た。

午後からは徒歩にてカステッロ広場へ、とにかく歩かされた。

王宮、サンカルロ広場など観光。市内に戻り、「ポルティコ」と呼ばれる柱廊アーケードでショッピングを楽しむ。

トリノは壮麗なバロック建築や、サヴォイア家の王宮群と共に1997年には世界遺産に登録されている。（イタリアは世界遺産の数では世界で1番）また、街の美しさという点ではイタリアNo.1とまで云われている。



市内のポルティコの散策が終わろうとした頃、ガイドのフェラリタさんから、今、レオナルド・ダ・ヴィンチ没後 500 年の記念の催しが各地で行われていて、ここでも彼の描いた本物のスケッチが見られるというので、早速行く事にした。その内の何枚かは写真等で見た記憶があったが、こんなに沢山の本物を目の前で出会えた事に感激した。このトリノで名門の王宮文化にふれたことはこの上ない体験となった。



かくして、トリノの観光は終了し、再びフェラーリ特急でミラノへ。

夕食は例のレストランで、トリュフ入りスパゲティ（美味）、花山 L 絶賛のうどん風トマトソース入りのスパゲティなどに舌鼓を打つ、充実のトリノ観光でした。



【インターナショナルパレード編】

森下雄一

7月6日 ミラノに着いて二日目の朝、時差ぼけのせいか浅い睡眠を3時間ほどとり、現地時間の朝4時に目覚める。

6時半には朝食をとり、ロビーから外を見れば、予報通りの快晴であった。最高気温 32℃の予報であるため、熱中症対策をしなければならないほどのよい天気恵まれた。

越智 L 徳増 L そして私の3名は、役職プラカードを持ってパレードを行う担当で、9時には集合場所に行かなければならなかった為、早めにホテルを出てタクシーで集合場所へ向かった。

花山 L は、足の調子が悪かった為、写真撮影等記録係りを引き受けて頂いた。

今回のミラノへの旅の一番の心配が花山 L の足の具合であった為、パレードは無理と判断した事は賢明であり少しホッとしていたが、集合場所に着いた時にすぐそれは裏切られ、カメラを持って花山 L は忙しく動きだし私達の視界から消えていった。



もう誰も花山 L を止められない！

2019-2021 国際理事 MD336

今回のパレードには世界 154 の国、地域からの参加があり、日本は95番目と後半の出発予定であった。それでも 10 時過ぎには出発出来るものと思って待っていたところ、前がかなり遅れていた為、11 時過ぎの出発となってしまった。もう既に私を含め、周りの方々は余りの暑さにぐったりした状態で、約 2 km 弱のパレードを行った。

プラカードを持ち、整列してパレードをするのは初めての事であった為、少し誇らしくも思え良い経験となった。沿道からは沢山の声援も頂き、これまで参加したインターナショナルパレードのなかで一番気持ちの良い楽しいひと時となった。

終点に着いた時、花山 LL 徳増 LL とスムーズに合流することが出来たのだが、やはり心配事は的中した。花山 L がそこに居なかったのである。

その事は想像するに簡単な事であったが、かなりの人ごみと長い距離であった為、非常に心配であったがなんとか無事合流することが出来た。

後々、帰ってから花山 L から頂いた思い出アルバムを見て、何をしていたかよく理解出来たのだが、写真総枚数 117 枚！ 私達の倍は軽く歩いている事が窺えた。

それでもパレードを無事終えたことと皆様が元気そうなので、とても安堵した。その後の昼食とビールは格別であり、笑顔の絶えない良い 1 日となった。



7月7日（金）ベネチア観光

花山育子

ホテルから徒歩 5・6 分の所にあるミラノ駅へ少し早目に到着、次々と到着する電車の中に珍しく何と「蒸気機関車」が到着していました。

出発間近なのか白い煙を吐き黒い煙がもくもくと幼いときに嗅いだ石炭の匂いを残し蒸気機関車は出発して行きました。



ミラノ駅「FRECCIROSSA 9 0 7 5」8：15 発にてベネチアへ・・・車窓から見る風景はのどかな田園風景が続く中、インドの 5 歳になる少年とお友達になり翻訳機が大活躍！ 到着までの楽しい数時間を過ごすことが出来ました。

観光地だけあって凄い人だらけのなか、水上バスでサンマルコ広場～ドゥカーレ宮殿～サンマルコ寺院～ゴンドラクルーズの観光・・・。



サンマルコ寺院は9世紀にエジプトから運ばれた聖マルコの遺体を納める為に建てられた寺院です。内部は厳かな雰囲気、丸い天井のモザイク画は旧約聖書よりテーマを採っています。

ドゥカーレ宮殿はベネチア共和国総督の政庁として9世紀に建てられましたが何度かの火災に遭い、現在の建物は15世紀のもの、入口は寺院の右側宝物館の裏にあります。幾つかの評議員の部屋、そして大会議室などがあり、すばらしい絵画が飾られています。テントレドの「天国」世界最大級（7m×22m）の油絵があります。

有名な「溜息橋」宮殿内部の階段を下りると河岸に面したバリア橋から見えるのが溜息の橋、ドゥカーレ宮の地下牢獄はコンクリーに包まれ、食事は小さい穴から手を出し粗末な食事を貰っていたのでしょ。地下牢は満水時には水牢になり、この橋を二度とこの世に戻ってこないと言われ、橋の小窓からこの世の別れを惜しみ溜息をついたという逸話が残っているそうです。その窓も粗末な小さな窓外の景色はほとんど見えなかった様で、涙ながら溜息も出ていたのでは。聞いている私も溜息がでました。



ゴンドラクルーズは、狭く細い航路を上手に漕一本で操り、残念だったのはカンツォーネの歌声があればもう少し雰囲気があったかなと思います。

カンツォーネの歌がないのが少し寂しかったかな？

娘の話によると20年前はコンドラのから上を見ると洗濯物が風に揺れていたそうですよ。より一層観光化され美観を取ったのでしょね。



越智さんが行く前から調べて吟味して頂いた、ベネチア料理が充実、給仕係もよしもと新喜劇の芸人さん顔負け位、愛想よく陽気な雰囲気を醸し出し、料理に舌鼓「イカすみパスタ」一口口に入るとイカの香りがふぁ〜と「美味し！」のひと言！いわしと玉葱ワインビネガー漬・他魚介類料理も全てとっても美味しかったです。

デザートはコーヒーの飲めない私ですがエスプロッソとティラミスのマッチして、何と美味しかったこと！！

お買いものは、勿論ベネチアガラス。綺麗なガラスは¥000000手が出ないのでお手頃価格のものをあき子さんと探しお土産を買い求め、私はアクセサリを買って満足感を味わい、ベネチアを後にしました。今回も細かい楽しい計画で森下団長・越智さんにはお世話になりました。



明日はトリノへ・・・。



イタリア滞在 6 日目、イタリア観光最終日、少々重たい足を引きずりながら、ミラノ中央駅へ向けて 9 時にホテルを出発した。

勝手知ったるミラノ中央駅、ホテルの出発時刻は、初日発車 60 分前だったのが、6 日目にもなると、発車 20 分前と慣れてしまいました。慣れると失敗する危険が高くなるのでここは気を引き締めなおしました。

9 時 20 分ミラノ中央駅を後にして、渋い赤の車体の FRECCIARSSA 号は 300 km 近い速度で南下し、1 時間 40 分でフィレンツェへ到着、ホームで本日のガイドの山本さんと合流、40 代？と思われる独身日本人女性で、フィレンツェの申し子のような聡明な方でした。

今日の観光スケジュールによると、16 時最終観光場所はジョットの鐘楼で 413 段の階段を上りフィレンツェの街を一望するという内容らしい、昨日トリノで疲れ果てて、午後からカフェで休んでいた為に、レオナルド・ダ・ヴィンチの自筆のスケッチを見逃した私としては、何としても本日はスケジュールを全うするために、昼食時のお酒を控える決心を固めました。

ここで、フィレンツェ雑学

2 千年以上前、ローマの植民地として成立したフィレンツェは、西暦 476 年西ローマ帝国滅亡とともに植民地ではなくなるが、街としては衰退する。共和制を目指す市民感覚から復興は遅れるが、西暦 1200 年ごろから繊維業、金融業、皮革産業が発展し、1300 年代には 10 万人を超えたが、1348 年発生 of ペストにより 3 万人に減少し、再び衰退する。

14 世紀後半から、文化ルネッサンス所謂、学問、芸術、科学、建築等部門の革新的文化活動で、ギリシャ・ローマ時代の古典文化への復興を目指し、教会中心の中世的思考を人間中心の思考へと転換しようというものであったらしいです。

このルネッサンスを支えたのが、15 世紀前半からフィレンツェに君臨したメディチ家であり、ボッティチェリ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ等のパトロンとして存在し、特に 1569 年にローマ教皇からトスカーナ大公の称号を受けたコジモ 1 世は、メディチ家のヴェッキオ宮殿と回廊で結ばれたウフィツィ行政事務所を建造したが、継跡のフランチェスコ 1 世が美術館に改造し、イタリア最大の美術館の足掛かりをつけたそうです。

そろそろ、美術品の鑑賞に話を戻しましょう。
と、いう訳で、サン・ジョヴァンニ洗礼堂「天国の門」に始まり、ウフィツィ美術館にて



「受胎告知」
～フラ・アンジェリコ～

ボッティチェリ「ヴィーナスの誕生」



「天国の門」

「春」



ラファエロ ～「ヒワの聖母子」～



レオナルド・ダ・ビンチ～「東方三博士の礼拝」～



シニョリーア広場 ～「ダヴィデ像 (複製)」～

ミケランジェロ、等数々の美術品を眼近で堪能できました。

市街地は狭い道路が規則正しく張り巡らされており、コの字型かロの字型の石の2階または3階建てのマンションで、どれも500年以上前に建造されたもので、物干し場やエアコンの室外機は内側に配置され、外観は



きれいな景観を保持しています 午前の小腹が空いたところに、越智Lお薦めの屋台のもつ煮、ナンプレドット「はちのす」、トリッパ「牛もつ」を全員で分け合い、昼食は熟成肉専門ピアニーナにて15kgのTボーンに舌鼓を打って、飲みたいビールは我慢したけれど、至福の時を過ごしました。

観光最終日でもあり、時計、オイル、化粧品、女性もの・男性もの革製品等抱えきれない程のお土産を購入して、さあ最後の予約の取り辛い鐘楼上りに行こうとガイドさんが足を運ぼうとした時、越智Lは以前に上っているから行きません、花山Lは階段を登れる膝の状態ではなく、他の3人も揃って、413段は無理とキャンセルし、私一人となってしまったが、フィレンツェの原稿を割り当てられている私、昨日レオナルド・ダ・ヴィンチの自筆のスケッチを見逃した私の使命感が一人でも行けと、行って眺望を原稿に書くのだと少しでも考えるかと思っただが、みんなが辞めると言わなくても、僕はリタイアしますと真っ先に言いたい気持ちが本音です。

今後、北イタリアフィレンツェへ行かれる方は、旅疲れ前に鐘楼に上がる日程にしないと、フィレンツェの街を眺めることは不可能でしょう。

結局、その時間も土産物選びであつという間に過ぎ、帰路の電車の人となりました。

ミラノでの夕食時にどのくらいお酒を飲んだかは、ご想像に任せます。

それにしても、大変満足できる北イタリアの旅を提供してくれたライオンズのメンバーと、何より、和気あいあいと旅を楽しめた同伴の皆様へ感謝を述べて筆をおきます。

最後に、メンバーのみんな、旅のチャンスは逃さないで、是非一緒に楽しみたいです。

～あとがき～

第102回LCミラノ国際大会が盛会のうちに閉幕した。実に154ヶ国のメンバーが一同に会した大会であった。ミラノは常に観光客であふれている。今、世界的な異常気象である。

ミラノも近隣の観光地も例外ではなかった。暑さと待ち時間の長さ、そしてパレード。

決してきつくなかったといえば否である。旅はいつも楽しいことばかりではない。

後日、ミラノ日本大使館はパスポートの再発行の作業に追われたと聞く。

我々は大過なく記念の旅行が出来たのは何よりであった。

加えて、森下団長のもと共に行動出来たのが何よりだったと思う。

彼なくしては事は運ばない。

改めて感謝を申し上げる次第です。

MC委員 越智英明